

# 高等部 国語科 学習指導案

日 時:令和4年1月29日(土)

9:30~10:20

場 所:本館3階 音楽室

対 象:Dグループ 4名

授業者:徳脇 朋子

1 題材名 『どこでもトリップ』で、誰、どこ、何をしたなどの視点をより具体的にしたり、ものの様子の視点を入れ  
たりして、話の中心を詳しく伝えるための構成を考えて、自分がしたことや見たことを話そう

## 2 題材設定の立場

### (1) 題材について

生徒観	本グループは、3年生1名(T)、2年生3名(G・H・M)の計4名の生徒が在籍している。興味がある話題を友だちや教師とよく話し、将来は、就労継続支援B型や一般就労(障がい者雇用)で、いろいろな人たちとかかわりを持ちながら生活することを目指している。集団の中で話を聞いたり、相手に伝わるように内容を考えて話したりすることに課題がある生徒たちである。
系統観	<p>本グループは、小学部3段階と中学部1段階の聞くこと・話すことを学習するグループである</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">誰・どこ・何をしたを入れて、自分のしたことを複数の文で具体的に話す</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分のしたことを時間の順序に沿って話す</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ものや場所、自分のしたことの様子がわかるように複数の文で話す(G・H)</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">活動したことを順序に沿って話す</div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">詳しく話す事柄を決めて話す(T・M)</div> </div> <p>前題材までに、自分のしたことを場所、活動を入れて2~3文で話したり、活動したことの順序に沿って話したりすることができるようになってきている。そこで、本題材では、ものや場所、活動などのいずれかの視点をより具体的に複数文で話すことや、話の中心について詳しく話すことを扱い、自分がしたことや見たことをより詳しく伝えるように話すことができるようになってほしい。</p>
指導観	自分のしたい話をしたいように話し、結果的に相手に伝わらないことの多い本グループの生徒たちには、自分がしたことや見たことを相手にわかるように伝えるために、話す視点をより具体的にしたり、話の中心を決めて内容を構成したりすることは、将来の生活にとって価値のあることと考える。そこで、必要な視点や構成で自分が話すことができたかどうかを、動画を見て自ら振り返ったり、伝わったかどうかを友だちと話し合ったりする場面を設け、友だちや教師とのやり取りを通して、話に必要な視点や構成を身につけられるようにする。こうして、相手に伝わる経験を重ねることで、生活場面でも自分がしたことや見たことを家族や友人、同僚に伝えるように話すことができるようにしたい。
教材観	本題材では、学習に必要な視点や構成を扱った課題を設定でき、生徒たちが興味をもって取り組めるように、VR(バーチャルリアリティ)を用いることとした。普段、動画を見ることの多い生徒たちなので、VR動画を自分の経験として捉えることは可能であり、伝わりやすく活かすための視点や構成についての課題も設定しやすい。また、その動画を見ることで他の生徒と話題を共有でき、振り返りを行えることから、この教材が有効と考えている。

### (2) 生徒の実態と指導の方向

生徒の実態	
G	<p><b>【一般的な実態】</b> CA:17</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・興味があることなどについて、友だちや教師に「〇〇知ってる」と自分から尋ねる。</li> </ul> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の読み方や活動の仕方を教師に自分から尋ねたりする。</li> </ul> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学旅行の思い出を話すときに、「中津で唐揚げがたくさん食べました」「宇佐でお守りを買いました」と話す。</li> </ul>

G	<p>・「アミュではどこに行ったの」と聞くと「ポポンデッタに行った」と話し、「ポポンデッタで何をしたの」と聞くと、「プラレール買った」と話す。</p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <p>・わからないことがあったときに「いくつ（数）ですか」、「職員室（場所）ですか」などと尋ねる。</p> <p><b>【指導の方向】</b></p> <p>自分のしたことを話すときに、経験したことの順に話をしたり、「どこで（場所）」「何をした（活動）」を入れて話をするが、友だちや教師からの質問に答えることで話が広がることが多い。本題材では、相手からの問いに応じて話をする人が多いGに、自分から具体的な視点を入れて相手に伝えることができるようになってほしい。そのために、はじめに教師が具体的な視点を抜いて話をし、体験したことが伝わったかどうか問い、視点をより具体的にすることが必要であることに気づくようにする。体験したことに応じて、場所、活動、人のどの視点を具体的にすると詳しく伝わるかを確かめて視点カードに書き、視点を順に増やしていくようにする。</p>
I	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：17</p> <p>・自分の興味があることなどについて、友だちや教師に自分から話す。</p> <p>・自分の見たものについて「〇〇みたい」などと例えて話すことが多い。</p> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <p>・間違いが続くと、取り組んでいる課題（プリント）や筆記用具を片づけることがある。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <p>・漢字の読み方や活動の仕方を自分から教師に尋ねたりする。</p> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;知識及び技能&gt;</p> <p>・修学旅行の思い出を話すときに、「中津でいろんな景色を見ました」、「城島高原パークでは、お土産を買ったり、アトラクションで遊んだりしました」と話すことができる。</p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <p>・修学旅行の思い出を話すときに、「中津でいろんな景色を見ました。でもすごい高かったです」と話す。</p> <p>・わからないことがあったときに、「誰に持っていきますか」や「数がない」、「（場所）ですか」と尋ねる。</p> <p><b>【指導の方向】</b></p> <p>自分のしたことを話すときに、経験したことの順序に沿ったり、「どこで」「何をした」や場所やものの様子の視点を入れたりして話すことはできているが、主語となるものや場所が抜けることがある。本題材では、自分が経験したことを話すときに、相手に詳しく伝えるための事柄の詳細を考えて、主語を入れて具体的に話すことができるようになってほしい。そのため、はじめに教師が主語の入っていない話をし、体験したことが伝わったかどうかを問い、「どのようだ」にあたることばが「何が（主語）」にあたることばを説明していることに気づくようにする。体験したことの様子や状態にあたる主語（場所やもの）を確かめ整理していくことで、様子や状態を表す主語を入れて詳しく話せるようになってほしい。</p>
H	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：17</p> <p>・特定の友だちや教師に自分から話しかける。</p> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <p>・意見を求められたときに、うつむいたり、黙ったりすることがある。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <p>・経験したことがある活動は、自分から取り組む。</p> <p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <p>・修学旅行のことを話すときに「中津城で唐揚げ弁当を食べました。唐揚げ弁当を食べた後は、～」と話す。</p>
T	<p><b>【一般的な実態】</b> CA：18</p> <p>・自分が興味あることを、突然、教師に話しはじめる。</p> <p><b>【指導方法に関わる実態】</b></p> <p>・意見を求められたときや質問に「えー」と言ったり、黙ったりして回答に時間がかかる。</p> <p>&lt;学びに向かう力・人間性等&gt;</p> <p>・前時に習ったことを思い出して、課題に取り組もうとする。</p>

	<p><b>【本題材に関する実態】</b></p> <p>&lt;思考力・判断力・表現力等&gt;</p> <p>T ・校外学習の発表で、「一番楽しかったのは、ボウリングです。ボウリングでは、～。ボウリングが終わって、わさだタウンで買い物をしました。僕が買い物したのは、～。お昼はケンタッキーで、～。疲れましたが楽しかったです」と話す。</p>
--	--

**【指導の方向】**

TとHは、自分のしたことを話すときに、経験したことの順序に沿って話をしたり、経験した事柄を具体的に思い出して伝えたい事柄を決めて話をしたりすることはできる。Tは、経験した事柄を全て話す、Hは、経験した事柄を時系列に話す、話がまとまっていないために、伝えたいことが相手に伝わりにくいことがある。本題材では、自分がしたことを話すときに、話す事柄を構成し、相手にわかりやすく伝えられるようになってほしい。伝えたいことを整理して話し、伝わる経験を重ねることで、相手との会話を楽しむことができ、自分から友人や同僚に話しかけることが増えていくと考える。そのために、体験した事柄を時系列に整理して一番伝えたいことを選び、選んだ事柄の様子や気持ちなどを入れた具体的な話の構成を考えるようにすることで、相手にわかりやすく話すことができるようになってほしい。

**3 題材目標 ※「知識及び技能」を「知」、「思考力・判断力・表現力等」を「思」で示している**

題材目標		学習指導要領の扱う内容
G	知	自分が体験したことを話すときに、場面に応じた具体的な視点を入れて話す相手に伝わりやすいことがわかり誰・どこ・何をした(何をどうした)など、複数の視点を入れて話す
	思	自分が体験したことを話すときに、伝えたい場面について考え、詳しく話す視点を判断し、「○○の△△で～をした」「○○に行つて～した」などと詳しく話す
I	知	自分が体験したことを話すときに、主語となるものや場所に応じた事柄を入れて話す相手に伝わりやすいことがわかり、「○○は(が) どのようだ」など、主語を入れて話す
	思	自分が体験したことを話すときに、伝えたい場面について考え、主語となる場所やものに応じた事柄を具体的に話す
GI	学	ことばがもつよさを感じるとともに、相手にわかるように伝えようとする態度を養う
H・T	知	自分が体験したことを話すときに、伝える事柄を選んで話す相手に伝わりやすいことがわかり、思い出した事柄を構成して話す
	思	自分が体験したことを話すときに、具体的に思い出した事柄から伝えるために必要な事柄を判断し、判断した事柄を構成して詳しく話す
	学	ことばがもつよさに気づくとともに、相手にわかるように考えて伝えようとする態度を養う

**4 題材計画 ※資料末尾にA3別紙で記載**

**5 本時案 (全8時間中の4時間目)**

(1) 題目 『どこでもトリップ』で、どこ、何をしたなどのより具体的な視点や、場所の様子を入れて、話の構成を考えて、自分がしたことや見たことを話そう

**(2) 本時のめあてと評価規準**

観点別の本時のめあて		評価規準
G	知	自分が体験したことの伝え方を考えるとき、活動をより具体的にすると、詳しく伝わるのがわかり、「■■を～しました」と具体的に言う
	思	『どこでもトリップ』で自分が体験したことを話すとき、活動したことを詳しく伝える話し方を考え、「○○の△△で～しました」「○○の△△で■■を～しました」と、体験したことを話す

I	知	自分が体験したことの伝え方を考えるとき、「どのような（様子や状態）」にあたることばが「何が（もの）」にあたることばを詳しく説明していることがわかり、体験した様子や状態を表すもの（主語）を言う	体験したことを聞かれて、様子や状態を表すもの（主語：もの）を言う
	思	『どこでもトリップ』で自分が体験したことを話すとき、述語にあたることばから主語を考え、「何がどのような」と主語（もの）を入れて話す	体験したことを「何が（もの）が〇〇（様子や状態）でした」と詳しく話す
H・T	知	自分が体験したことを伝える話の構成を考えるとき、一番伝えたいことを詳しくまとめると、テーマが伝わりやすいことがわかり、体験したことを具体的に書いてまとめる	一番伝えたい事柄について、意見や気持ちを入れて具体的に書いてまとめる
	思	『どこでもトリップ』で自分が体験したことを話すとき、体験したことから一番伝えたいことを考え、様子や気持ち（意見）を入れて具体的に詳しく話す	一番伝えたい事柄を「何をしてどうだった（様子や気持ち）」と詳しく話す
全学		A3資料「4 題材計画」に記述した主体的な姿が見られるかどうかで題材終了後に評価する	

### (3) 場面設定と準備物

場面設定	意図と工夫点
	<p>視点や主述を考えて話す生徒と体験したことを話す構成を考える生徒の座席を分け、活動を行いやすくした。</p>

準備物		
<p><b>教具名</b> 視点カード (G・I)</p> <p><b>意図と用途</b> 体験したことを話すときに、具体的に作る視点（場所、活動）の手がかりになるように、話した視点を自分で記述したカード。具体的に作る視点を確認するとき（展開）に使用する。</p>	<p><b>教具名</b> VR動画とVRゴーグル</p> <p><b>意図と用途</b> 詳しく伝えるための具体的な視点と事柄が入った学校生活を場面にした動画。詳しく話す伝え方を考える（展開）、体験したことを詳しく話すとき（発展）に使用する。 『どこでもトリップ』で、没入感のあるVR体験ができるように使用する。</p>	<p><b>教具名</b> 話すポイントシート</p> <p><b>意図と用途</b> 詳しく伝えるためのポイントをまとめる、詳しく話す伝え方を考えて、まとめる（記入）するとき（展開）に使用する。</p>

### (4) 展開 ※資料末尾にA3別紙で記載

4 題材計画

			一次	二次				三次		
時数			1	2	3	4	5	6	7	8
G	知技	場面	教師が体験したことを話すのを聞くとき	自分が体験したことの伝え方を考えるとき						
		できた姿	「どこですか」とわからなかった視点を教師に問う	「〇〇の△△で (に)」と場所をより具体的にして話す	「■■を～しました」と活動をより具体的にして話す		一緒に活動した人を入れて、「誰と、どこで (場所) 何をしました」と言う			
G	思判表	具体的状況		『どこでもトリップ』で自分が体験したことを話すとき						
		表出像		場所を具体的に伝える伝え方を考え、「〇〇で (に) ～しました」、「〇〇の△△で～しました」と、体験したことを詳しく話す	活動を具体的に伝える話し方を考え、「〇〇の△△で～しました」「〇〇の△△で■■を～しました」と体験したことを詳しく話す		一緒に活動した人を具体的に伝える伝え方を考え「誰と■■を～しました」「誰と△△で～■■を～しました」と、体験したことを詳しく話す		場所、活動、誰のどれをより具体的にすると詳しく伝わるかを考え、体験を詳しくする伝え方で話す	
I	知技	場面	教師が体験したことを話すのを聞くとき	自分が体験したことの伝え方を考えるとき						
		できた姿	「どこですか」とわからなかった視点を教師に問う	様子や状態を表す場所 (主語: 場所) を言う	様子や状態を表すもの (主語: もの) を言う		自分が体験したことを話すとき			
I	思判表	具体的状況		『どこでもトリップ』で自分が体験したことを話すとき						
		表出像		述語にあたることばから主語を考え、「誰がどうした」、「何がどのような」と主語 (場所) を入れて話す	述語にあたることばから主語を考え、「誰がどうした」、「何がどのような」と主語 (もの) を入れて話す		詳しく伝えるために、主語と述語のつながりを考えて、「誰がどうしたか」「何がどうしたか」と主語 (自分、場所、もの) を入れて話す			
H・T	知技	場面	体験したことを話すとき	体験したことを伝える話の構成を考えるとき						
		できた姿	場所、何をなど入れて、時系列にしたことを話す	体験したことを時系列に整理してテーマを決め、伝えたいことを選ぶ	一番伝えたい事柄について、様子や気持ち (意見) を入れて具体的に書いてまとめる		何をした、どうだった、まとめの順で話すことを書いてまとめる			
H・T	思判表	具体的状況		『どこでもトリップ』で自分が体験したことを話すとき						
		表出像		体験したことから、一番伝えたいことを考えて、話す	体験したことから、一番伝えたいことを考え、具体的に詳しく話す		伝える順序を考えて、何をした、どうだった、まとめの順で話す		話を聞いた人がわかりやすいことを考えて、何をした、どうだった、まとめの順で話す	話を聞いた人がわかりやすいことを考えて、何をした、どうだった、まとめの順で1番伝えたいことを詳しく話す
主体的な姿		粘り強さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自分から課題に取り組んだり、最後まで取り組んだりする</li> <li>○相手に詳しく伝えるための視点が入っていたか、動画を見て確かめる</li> <li>○詳しく伝えるための視点が入っていないとき、場所、活動、誰のどれをより具体的にするかを考え直す (G・I)</li> </ul>							
		学習調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>○わからないときに教師に尋ねる (G・I)</li> <li>○わからないときに友だちや教師に尋ねる (H・T)</li> <li>○動画を見て相手にわかりやすく伝わる話の構成になっているか確かめる (H・T)</li> <li>○発表のときに、自から手を挙げて発表する</li> </ul>							
配慮的に扱う内容			○場所の様子や状態を表すことば (I) ○もの様子や状態を表すことば (I) ○主語と述語 (I・H・T) ○一文の長さ (H・T) ○文の構成 (H・T)							

(4) 展開

学習活動	教師の意図と働きかけ			
	G	I	H	T
1. 前時の振り返りと本時の学習内容を知る。	<p>○前時までの学習を振り返り、本時で行う活動がわかるように、体験したことを話すときのポイントを確認する。</p> <p>○自分が体験したことを話すことが意識できるように、学校生活の場면을題材にしたVR動画とVRゴーグルを提示しながら『どこでもトリップ』で体験したことを話すことを確かめる。</p>			
2. VR動画を見て、体験したことが詳しく伝わる伝え方を考える。	<p>○活動をより具体的にすると、詳しく伝わることに気づくように、VR動画を見た後、教師が具体的な視点が入っていない話をし、体験したことが伝わったかどうかを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかげに黙っている場合には、詳しく話すためのポイントがわかるように、どのように話すか伝わるか問い、教師が話した内容を提示しながら動画を見直す。</li> <li>・「場所がわかった」と言った場合には、場所以外の具体的にする視点に目を向けられるように、教師の話の内容を掲示したものを指さし「何をしたかな」と問う。</li> </ul> <p>○「何をしたかわからなかった」と言った場合には、教師が話した内容を指さし、活動（何をした）を具体的にすると詳しく伝えることができることを意味づける。</p> <p>○より具体的にして話す視点が理解できたかを確かめるために、VR動画を見て、体験したことを話すように伝える。</p> <p>○相手に詳しく伝えるための具体的な視点を入れて話すことができたかを振り返られるように、話している様子をタブレット端末で撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験した活動を具体的に話せていない場合には、具体的にする視点に目を向けることができるように、撮った動画を見た後に何をしていたか尋ねる。</li> </ul> <p>○体験した活動を具体的に話した場合には、どこを詳しく話したかを問い、活動をより具体的に話したことで、体験したことが詳しく伝わったことを意味づけて、認める。</p>	<p>○「どのようだ（様子）」にあたることばが「何が（もの）」にあたることばを説明していることに気づくように、VR動画を見た後、教師が主語（もの）の入っていない話をし、体験したことが伝わったかを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問いかげに黙っている場合には、「どのようだ」にあたる主語がなかったことに気づくように、教師が話した内容を提示し、様子にあたる主語を聞く。</li> </ul> <p>○「何のことかわからなかったよ」と言った場合には、教師の話の内容（「どのようだ」）を掲示したものを指さしながら、詳しく伝えるためには、主語を入れて話す必要があることを意味づける。</p> <p>○「どのようだ」にあたる主語を入れて話すことが理解できたかを確かめるために、VR動画を見て、体験したことを話すように伝える。</p> <p>○相手に詳しく伝えるために、もの（主語）と様子（述語）のつながりを考えて話すことができたかを振り返られるように、話している様子をタブレット端末で撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験した「どのようだ」にあたる主語が入っていない場合には、撮った動画を見た後、「何が～だった」のかを尋ねて、主語（もの）を入れることを確かめる。</li> <li>・ものと様子がつながっていない場合には、話すときのポイントを考えられるように、VR動画で話した内容（どのようだ）の場面を見直して、主語を確かめる。</li> </ul> <p>○「何が（もの）どのようだ」と話した場合には、主語を入れて話すこと、体験したことが詳しく伝わることを意味づけるために、わかりやすかったことを伝えて認める。</p>	<p>○体験したことをわかりやすくまとめるためのポイントを問い、確かめる。</p> <p>○聞く人にわかりやすく話せるように、VR動画を見て体験したことを詳しく書いてまとめるように伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○で何をしました」と書いた場合には、体験したことをより具体的にすることがわかるように、書いた文を指さしながら「～してどうだった」と問い、詳しく書いてまとめるようにする。</li> <li>・体験したことを時系列に書いた場合には、事柄を並べただけでは中心が聞く人にわからないことを伝え、書いた文を見ながら、一番伝えたい事柄を確かめ、選んだ事柄を詳しく書いてまとめ直すようにする。</li> </ul> <p>○体験したことを詳しく書いてまとめた場合は、一番伝えたいことを詳しくするとよいことがわかるように、話したいことがよくわかることを伝えて認める。</p> <p>○一番伝えたいことを詳しく話すと、聞く人にわかりやすいことを理解できたかどうかを確かめるために、VR動画を見て、体験したことを話すように伝える。</p> <p>○一番伝えたいことをわかりやすく話すことができたかどうかを振り返られるように、話している様子をタブレット端末で撮る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話がまとまっていない場合には、撮った動画を見た後、一番伝えたい事柄を確かめ、話したいことを詳しくまとめ直して、もう一度話すように伝える。</li> </ul> <p>○体験したことを詳しく話せた場合には、伝えたいことを選んで、詳しく話すとよいとわかるように、体験したことをよく伝えることを伝えて認める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたい事柄以外も詳しく書いた場合には、全てを伝えると聞く人に伝わりにくいことがわかるように、例を挙げて聞く人の立場を理解した後、詳しくまとめる事柄を決めるようにする。</li> </ul> <p>○体験したことを詳しく話せた場合には、伝えたいことを選んで、詳しく話すとよいとわかるように、体験したことがよく伝わることを伝えて認める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番伝えたい事柄以外も詳しく話した場合には、聞く人にわかりやすく伝えるためには、一番伝えたいことだけを話せばよいことがわかるように、体験したことをまとめたときのポイントを問い、一番伝えたいことだけを詳しくすることを確かめ、もう一度話すように伝える。</li> </ul>
3. 『どこでもトリップ』で体験したことを話したり、友だちが話すのを聞いたりする。	<p>○詳しく話したり、わかりやすく話したりすることができるか確認するために、『どこでもトリップ』で体験したことを話すようにする。</p> <p>○より具体的にする視点に目を向けて見ることができるように、詳しく伝えるためのポイントを問い、確認した後、VR動画を見るように伝える。</p> <p>○相手に詳しく伝えるための具体的な視点を入れて話すことができたかどうか確かめるために、話している様子をタブレット端末で撮り、体験した活動を具体的に話した場合には、活動をより具体的に話したので、体験したことが詳しく伝わったことを意味づけて、認める。</p>			
4. 本時を振り返り、わかったことを発表する。	<p>○本時学習したことを振り返るために、体験したことを詳しく伝えるために、どのように話をしたかを発表する。</p> <p>○次時への意欲をもてるように、『どこでもトリップ』でいろいろな体験をすることを伝えて本時を終わる。</p>			